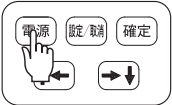
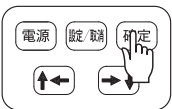


大気の汚染を測定しよう



1.電源を入れる。
電源ボタンをブザー音がするまで押し続けます。
(2秒間位、押し続けて下さい)



2.大気汚染測定モードにする。

* Normal Cs137

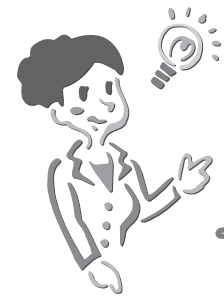
 になっている事を確認して「確定」

3.測定開始!
測定できます。

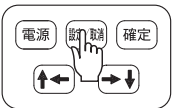
4.電源を切る時は。
電源ボタンをブザー音がするまで押し続けます。
(2秒間位、押し続けて下さい)
地面から1m離し、
水平に構えて測定。



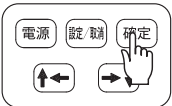
更に便利な使い方
Av (アベレージ) モード



放射能の発生は不規則なので
測定値が安定せず、数値が把握
しづらい場合があります。
このような場合は、Av(アベレージ)
モードを使う事で安定した平均値
を得る事ができます。



1.設定メニューを開く。
測定中に「設定/取消」ボタンを押します。



Mode?
Measure

 が表示されたら「確定」ボタンを
押します



2.Av (アベレージ) モードを選ぶ。

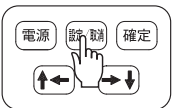
Measure?
* Sv/h

 が表示されたら「↑←」ボタンを
1回押して



Measure?
Av Sv/h

 の表示を出してから確定ボタンを
押します。



3.設定メニューを終了する。

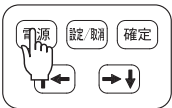
A 0.060
uSv/h

 「設定/取消」ボタンを2回押すと設定
メニューを終了します。
Av (アベレージ) モードに変換した事
を示す“A”マークが表示されます。

※正確に測定する為に最低10分間の測定を何回か繰り返し
返し行い数値が安定している事を確認する様お勧め致します。

表面汚染を測定しよう
※目安としてお使い下さい!

自然界には微量の放射線が存在するため、放射線汚染されていない地域で
測定しても、微量の放射線量が計測されます。測定したい対象物の放射線汚
染度合いを正しく測定するには、以下の手順が必要です。
汚染物質の放射線量→バックグラウンドの放射線量
※バックグラウンドとは、汚染物質が無い状態の測定環境を言います。
※上記それぞれの放射線量は同一の現場で同時期の測定を行います。
以下の手順に従い、より精度の高い線量を測定しましょう。
注)換算は食品の簡易汚染計測を目的とした物であり、工業製品の汚染
(Bq/cm)換算には使用できません。



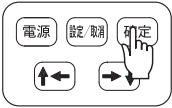
1.電源を入れる。
電源ボタンをブザー音がするまで押し続けます。
(2秒間位、押し続けて下さい)



2.表面汚染測定モードにする。

* Normal Cs137

 「→↓」を押して

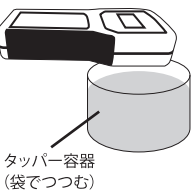


Normal
* Cs137

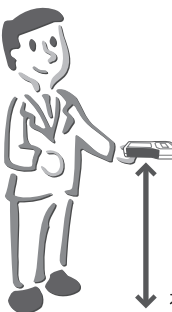
 になる様“*”マークを動かし
「確定」ボタンを押します

表面汚染測定に最適化される為、大気汚染測定に比べて数値が高めにたま
りますが、異常ではありません。

3.Av (アベレージ) モードにする。
「更に便利な使い方」に従い、アベレージモードに
設定します



4.汚染物質の値を測定する。
汚染物質を1kg用意し、タッパー容器に入れます。
(タッパーをラップ等で包み、RD105Cに汚染物質が付着
しないようにします)
タッパーとRD105Cを5mm程度まで近づけて放射線量を
測定します
※正確に測定する為に最低10分間の測定を何回か繰り
返し行い数値が安定している事を確認する様お勧め致
します。



5.バックグラウンドの値を測定する。
次に、汚染物質が無い状態での測定環境の汚染度合いを
測定します。大気汚染の測定と同じように、1 mの高さに
RD105Cを持ち、汚染物質が無い測定環境の放射線量を
測定します。
※正確に測定する為に最低10分間の測定を何回か繰り
返し行い数値が安定している事を確認する様お勧め致
します。

6.Sv⇒Bqへ単位換算する。
4と5で測定した値を引き算して、汚染物質自身から放射
される線量を計算します

uSv/h	Bq/kg
0.005	367
0.006	440.4
0.007	513.8
0.008	587.2
0.009	660.6
0.01	734

汚染物質の放射線量→バックグラウンドの放射線量
引き算して出た数値に73400を掛けるとおおよその
Bq/kgが分かります